女性医師のさらなる活躍を応援する
シンポジウム

藤田保健衛生大学名誉教授
医療法人並木会並木病院院長
山本纊子

2014／8／24

自己紹介を兼ねた私見

山本纊子（1943年広島県呉生まれ）

＊エジプト学を希望したが、父に反対され、60歳になっても何も発見できない不安に負け、断念（Y染色体がなかったことが原因？）

＊母は、絶対に資格のある職業が良いと本居宣長（小児科医）、斎藤茂吉（精神科医）を例にとりあえず医師を推薦、納得して名古屋大学医学部に進学

親は子の性格を見ていて、今では、自分は医師に向いていたと思う

＊教養課程ではドイツ語会話に興味を持ち、週4日通う

＊在学中、1969～70年産経スカラシップにてドイツ・ボン大学医学部に留学

水野成夫社長ー日本の今後のため大学在学中の若者に国際感覚をつけることを目標とし、次代を育てる女性が重要と男女平等に選考

八木国夫教授ー基礎の教授6人はドイツの単位を認めるということであったが、フランス学派の教授は認めず、1年休学し、1学年下に編入

八木教授に感謝ーこの学年で伴侶を見つけることになる

古武弥四郎教授ー「女性は将来、家庭と医師の両立で大変と思うが、優先順位を考え、積み残しは長生きして取り戻せば良い」

＊1969年大学を卒業、大学紛争で大学院に進めず、名古屋第一日赤で研修
2年目で結婚が決まり、家庭を持ったら困難になるとECFMG資格を取得した
＊1971年第一内科第4研究室（神経内科）に入局
当時神経内科は、分からない、治らないと敬遠されていたが、診察だけで
病巣が解明でき、病歴を加味して病因診断ができることに興味を持った
祖父江逸郎教授―4年間、徹底的にベッドサイド診断技術（Art)を指導された
＊1972年長女出産、1973年7月伴侶のアメリカ留学に同行、1年半専業主婦
その後、1年半は、レジデントの勧誘を断り、外来診療に従事、講義など受講
ヒポクラテスは、「Art is long」といったが、「Art is universal」である
伴侶のキャリア形成に付き合いながら、自分の道を見つける
＊1976年帰国し、夫婦の双子出産　脊髄小脳変性症の異常眼球運動の研究開始
この研究は先輩の学会宿題報告の為に開始したが、開発中の抗失調薬の
効果判定指標となり、Neurology, Lancetに論文が掲載された
その関係で「1リットルの涙」の著者の主治医となり、後に神経眼科学会理事や
大学および愛知県医師会治験審査委員会の委員長にも就任
当面テーマがなければ、いろいろなことに付き合ってみるのも良い

ある子育て中の女性医師の１日

3 起床

4 専門書、論文を読む

5 論文、原稿書き

6 朝食準備・洗濯
子供の世話120分

7

8 出勤
勤務先到着

9 外来開始

10

11

12

13 昼食15分

14

15

16

17 外来終了
患者関連書類記載

18

19 勤務先出発　・帰宅
夕食準備30分

20 子供と共に夕食40分
入浴

21 子供と共に就床

22

23 授乳60分

24 トイレ20分

1

2

１日280分（約4．５時間）は家事・育児に当てられる
１日150分（約2．５時間）は学習に当てられる

＊昼間、子供の面倒を見てたのは、母、伯母、従兄の配偶者＋保育園

頼れる人にはありがたく頼る

恩返しができる時が必ずある―その時はできる限り恩返しをする

代務は極力止め、かつ収入は全て育児、家事の手抜きに使うこと

＊1980年この研究が学位論文に決まり、藤田保健衛生水野内科に赴任（助手）

水野康教授（循環器内科）―「神経内科の事は君に任せる」

任せられたら引き受けること――緒に仕事をしたい人が集まる

＊1981年講師、1984年神経内科診療科独立、同年助教授となる

＊1988年神経内科講座新設と共に教授就任

藤田啓介総長―「これからは女性医師が増加する。仕事と家庭を両立して君にそのモデルとなって欲しい」―辞令交付時の言葉

知人である患者を紹介し、その臨床力を評価、昇進時に反映

楽しく診療していたら、多くの患者さんが受診され、独立の道へ

＊2003年日本心身医学会理事（会員が評議員を選び、評議員の選挙で決定）

＊2005年日本神経内科学会理事（評議員の投票を参考に理事会で決定）

金澤一郎理事長―得票数も多く、女性の理事が出てもよい頃との発言で決定

女性で票をまとめたこと、学会・班研究などで親交をもっていたこと

ある管理職女性医師の１日

3	起床
	専門書、論文を読む
4	本日の予定チェック
	新聞切り抜き
5	論文、原稿書き
6	朝食準備・洗濯45分
	出勤
7	勤務先到着
	雑誌チェック
8	伯母の朝食介助45分
	職場の書類整理
9	管理会議
10	院内事務処理
11	院内事務処理
	病棟巡視
12	昼食
	メールチェック
13	外来開始
14	
15	
16	
	外来終了
17	患者関連書類記載
18	伯母の夕食介助45分
19	最終事務処理
	勤務先出発
20	帰宅
	夕食準備40分
21	夕食
	各種電話連絡
22	郵便物整理
	振り込み、役所書類整理
23	就床
24	
1	
2	

１日175分（約3時間）は家事・介護に当てられる
１日150分（約2．5時間）は学習に当てられる

* 出来れば配偶者を見つけ、ついでに挙児もお奨め
* 高度な検査手技にも匹敵し、診療に自信が持てる
* しかし、興味のないことは続かないので、難しいが決心次第
* 教育病院での持続勤務は困難だが、細切れでも続ける
* 「下手な考え休むに似たり」、「案ずるより産むが易し」
* 柔軟の程度は難しいが、自分の姿勢を決めつつ進むこと
* 必ず幸運の女神は微笑むので、その時は前髪を掴むこと
* 必ず応援団ができる、またあなたも応援団になること
* 自分自身、家族、援助してくれる人たちの心と体の健康
* 家族、同僚、上司そして社会全体の理解と協力

想像力を働かせ、できることをする（共感のみでも嬉しい）

社会（政府も含む）は、互助。共助。公助のシステムを作ってほしい

御清聴ありがとうございました。